

授業計画書(シラバス)

教科名	キルンワークI	曜日 時間	水:9:10~15:50	担当教員名	准教授 松藤孝一
-----	---------	----------	--------------	-------	-------------

	前期指導案		後期指導案		
(年間 27授 回業 日)	4月	15(休講)22(オンライン)	10月	7 14 21 28	
	5月	13 20 27(オンライン)	11月	4 11 18 25	
	6月	3 10 17(追加)24	12月	2 9 16	
	7月	1 8	1月	13 20 27	
	9月	2 9	2月		
方授 法業	(講義 ・ (実技))		(講義 ・ (実技))		
授 業 内 容	<p>キャストイング、パート・ド・ベール、フュージング、スランピングといった基本的なキルンワークの技術を修得しながら、素材であるガラスの特性にも理解度を深めていく。</p> <p>スケッチブックは、アイデアを整理そして発展させていく上で有効であり、その記録が担当教員とのコミュニケーションに役立つ道具として活用される。同じく、常に制作データ(ガラスの配合や電気炉の温度スケジュールなど)をスケッチブックに記録させる。</p> <p>学生にとって初めてのキルンワークの授業ということで、学生に対して分かりやすい指導を心がける。</p> <p style="color: red;">オンライン授業に伴う実習時間の不足分は通年で補講を検討</p>		<p>基本的なキルンワークの技術のもと、更にレベルアップした造形表現を探し求める。前期キャストイングの応用として、ロスト・ワックスの技法を学び、緻密な造形を習得する。</p> <p>また、引き型やプレス型などの技術を学ぶことにより、自分の求めるかたちを作品に取り入れられるようにする。</p> <p>授業を通して、学生が、素材や技法、またそのプロセスをトータルで考え始める機会にする。そして、自分のオリジナリティーを求めさせる。</p> <p>2年次に問題なくキルンワークの制作が自分で行えるように、年間を通してキルンワークの基礎をしっかりと身に付けさせる。</p>		
到達 目標	この授業では、技術の修得が目標である。		この授業では、技術の修得が目標である。		
成績 基準 評価	成績評価の基準は以下の通りである。積極的な授業への参加/意欲的な学習態度/課題の完成度/提出期限の厳守/授業の目標水準の到達/個人の成長度/出席状況など。		成績評価の基準は以下の通りである。積極的な授業への参加/意欲的な学習態度/課題の完成度/提出期限の厳守/授業の目標水準の到達/個人の成長度/出席状況など。		
留意 事項	作品制作に先立つアイデアスケッチや研究で収集した資料など全て作品と同様に評価の対象となるので手を抜かないこと。常に自分のテーブルとその周りを責任もって管理し、石膏室やワックス室等を使用した後はきちんと清掃を行うこと。		作品制作に先立つアイデアスケッチや研究で収集した資料など全て作品と同様に評価の対象となるので手を抜かないこと。常に自分のテーブルとその周りを責任もって管理し、石膏室やワックス室等を使用した後はきちんと清掃を行うこと。		